

生活科学系コンソーシアム第14回会議 議事録

日時： 平成26年12月25日(水) 11:00~12:30

場所： 大妻女子大学 千代田キャンパス校舎A棟357ゼミ室

出席者：(敬称略)

コンソーシアム構成学会より連絡担当者計13名

国際服飾学会	佐々井啓
日本衣服学会	阿部栄子
公益社団法人日本栄養・食糧学会	上原万里子
一般社団法人日本家政学会	杉山智美
日本家庭科教育学会	伊藤葉子
日本消費者教育学会	柿野成美
公益社団法人日本食品衛生学会	井部明広
一般社団法人日本調理科学会	笠倉和子
服飾文化学会	能澤慧子
一般社団法人日本繊維製品消費科学会	小柴明子
生活経済学会	上村協子
一般社団法人日本保育学会	守随香
特定非営利活動法人日本栄養改善学会	木戸康博

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員

小川宣子、塚原典子、香西みどり、薩本弥生、沖田富美子、都筑和代、
工藤由貴子

欠席者： 日本食品科学工学会 日本食生活学会

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員

渋川祥子、多屋淑子、藤原葉子、倉持清美、本田由紀、永富良一

資料

1. 生活科学系コンソーシアム第13回議事録(案)
2. 構成学会の会長及び連絡係りの氏名および連絡先一覧
3. 平成27年度科学研究費細目
4. 構成学会からのご意見
5. 家政学分科会からの説明資料
6. 第3回シンポジウム
7. 第6回生活科学系博士課程論文発表会

議事内容（敬称略）

1. 生活科学系コンソーシアム第13回議事録（案）の承認（資料1）（沖田）

2. 生活科学系コンソーシアム名簿の確認（小川）

第13回会議以降の連絡係りなどの変更および平成26年10月から学術会議が23期になり、学術会議の家政学分科会の所属会員が変更したことに伴う生活科学系コンソーシアムの委員の名簿確認。構成学会と家政学分科会委員の自己紹介を行った。

また、役員について当分、家政学分科会が中心になって行うが、将来的には構成学会の意見を反映するためにも構成学会が中心となり、活動を行っていく。

5月の総会までの役員は以下の通りを承認した。

委員

会長 小川宣子、副会長 塚原典子、事務担当 香西みどり、会計担当 薩本弥生
監事 渋川祥子、

構成学会から総会までは阿部栄子先生に事務担当をお願いし、了解を得た。

3. 生活科学系第8回総会の日程（小川）

メールで連絡があった5学会に加え、各学会の回答を得て平成27年5月27日（水）16:00または17:00からに決定した。決議があるので各学会から会長および連絡係りの2名の出席とする。

4. 科学研究費細目について（小川）

複合領域ということで他分野からの応募もあり、家政学の人を通りにくい現状がある。生活の視点を明確にし、どこに特徴をおくかが課題。日本学術振興会としては以前と違って個人、学会いずれからの意見も取り上げるので、学会とコンソーシアムそれぞれから提案を出す。事前の問い合わせに対するメールでの回答は日本栄養改善学会、日本家政学会、日本食品科学工学会からあったが、直接に各学会の意見を聞いた。

主な意見

- ・分割の項目に「B統合栄養学」を加えたことは今まで医学、農学にだしていたものについて、家政学の食にあたる部分を発展させることになると期待。現状は人を対象とした栄養がみえてない。キーワードをもう少し考える必要がある。
- ・衣・住生活学は分けるという意見と分けることで応募が少なくなり、キーワードとしてなくなる懸念があるとの両意見があった。
- ・衣生活教育、栄養教育のような教育との関わりに関するキーワードが欲しい。
- ・保育の分野が参入できるキーワードが点在しているので、統合していく必要がある。
- ・キーワードのレベルが違っている。小さいものと大きいものが混在している。

5. 生活科学系コンソーシアムの活動について（小川）

事前の問い合わせに対するメールでの回答は4.の3学会なので、各学会からの意見を聞いた。

主な意見

- ・構成学会で意見を交換する場があることは重要。相互連携については調整が必要。
- ・博士論文発表会の聴衆は少ないが、その後の交流会は活発に行われている。
- ・コンソーシアムを知らない人が多いので、企業、大学等で伝えることが大事。
- ・情報を共有できるしくみが必要。分野が広いと学会内でも目が届かない。

6. 報告

(1)家政学分科会からの報告（小川）

21 期から家庭科教育の大事さを考えて、大学の教養教育に「生活するための力をつける」科目を作る目的でテキストを作った。15 回分の授業として 15 章構成で、「人と生活」として出版した。また、家庭科教育の現状、問題点、変遷等を記録として学術会議の HP に掲載している。今後も家庭科教員養成の課題として提言を行っていく予定である。

②第 3 回シンポジウムについて（阿部）

一人あたり講演 30 分とし、時間がないので略歴は冊子をみてもらい、質問はまとめて行うこととする。「第 2 回家庭科教育に対する期待と提案」というタイトルで 6 つの生活科学（家政学）関連学会からの講演で問題提起となるよう話していただく。

③第 6 回生活科学系博士課程論文発表会について（工藤）

平成 27 年 3 月 26 日（木） 13:00～18:00 於横浜国立大学

43 大学、36 研究科に案内状送付。論文募集締め切りは 2 月 2 日。昨年は 8 件の発表。HP に案内をだし、申込書をダウンロードできるようにする。コンソーシアム会議メンバーには小川会長から案内、申込書をメールで送ることとした。

次回は 平成 27 年 3 月 26 日（木） 横浜国立大学 11 時～ （予定）